

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 2 月 25 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	江波戸順史
研究課題	デジタル課税と国家間の租税紛争				
研究キーワード	デジタル課税、残余利益分割法、定式配賦方式	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
1. 研究成果の概要 研究論文集が 2024 年 9 月に出版される。その原稿が完成した。研究では、移転価格税制の経験を踏まえ、利益 A に係るデジタル課税の意義と課題について検討している。デジタル課税の特徴は、残余利益分割法と定式配賦方式を組み合わせた仕組みになっていることであるが、その意義を移転価格税制との関係から明らかにしている。また、デジタル課税に関わる課題として国家間の課税ベース配分を取り上げ、OECD の一次資料から今後の展開を模索している。原稿は研究会に提出済みであり、あとは出版を待つばかりである。 2. 著書・論文・学会発表等 (できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載) 【論文 (査読あり)】 特になし 【著書・論文 (査読なし)】 「利益 A に係るデジタル課税の意義と課題—移転価格税制の経験を踏まえて—」(未定稿) ※2024 年 9 月に出版される著書の一章として執筆、現在租税資料館の出版助成に応募中 【学会発表等】 租税論研究会で報告、タイトルは上記の論文と同じ 3. 主な経費 ・デジタル課税、国際課税関連の書籍やプリンター用インクを購入 ・京都大学の研究会に参加するための旅費 (交通費、ホテル代) ・学会費の支払い 4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等) (本文は 2 ページ以内にまとめること)					